

INTERVIEW WITH YOU

あなたにインタビュー

BrightEyes

瞳を輝かせて

小さな生命を描きたいと思つて

とよた美術展'04で大賞を受賞

横井 新次さん(新屋)

輝



プロフィール

よこい・しんじ 1964年生まれ。中部二紀展「奨励賞・名タイ賞二席」、二紀展賞候補、はるひ絵画ビエンナーレ奨励賞、豊田市民美術展市長賞。上野の森美術館・日本の自然を描く展、春季二紀展(新人選抜)、中部総合美術展に出品。社団法人二紀会所属。7月1日から22日まで、はるひ美術館(西春日井郡春日町)で個展を開催する。趣味は山菜採り。

秋、たまたまブドウをジュースにして飲むと手に取ったことから、この作品は生まれました。「ブドウの実の繊維が、人の血管のように見えました。そして、ああ、このブドウも生きていたんだと感して、その小さな生命を描きたいと思いました」と振り返ります。



大賞に輝いた「生命」130号

「選できればと思つていました。まさか大賞に選ばれるとは」と話すのは、2月10日から3月7日まで、豊田市美術館で開催された公募展「とよた美術展'04」に油絵「生命」を出品。見事、大賞を受賞した横井新次さんです。この公募展は、平成12年度まで毎年開かれていた豊田美術館の内容を一新し、今回がその第一回展。全国から平面の部には266点、立体の部には124点の応募があり、横井さんの作品はその2部門全体の中から大賞に選ばれました。横井さんの作品「生命」は、ナイアガラという品種のブドウを描いたもの。フルーツジュースが好きでよく飲むという横井さんが、昨年の

もともと絵を描くことが好きだったという横井さん。絵を本格的に描くようになったのは、12年前のことです。「きっかけは、誕生日に、奥さんから油絵画材セットをプレゼントしてもらったことですね」。そして、その後、横井さんは独学で油絵の描き方などの勉強をしました。「最初は本などを読んで、基本的なことを勉強しました。今も常に初心者の気持ちで描くことを心掛けています。また作品を描くときは、とにかく楽しく描くつもりです」。

「自然」と「子どもの成長」の二つを作品作りのテーマにしている横井さん。「花を描くときは、その香りまでしてきこつた、子どもを描くときは、笑い声が聞こえてきこつた、そんな生命力にあふれた作品を描いていきたいです」。

また「今回をステップに、これからもどんどん公募展に出品していきたい」と意欲的です。

これからも、素晴らしい作品をたくさん描いていってほしい。

地震対策してますか

大きな家具が倒れてきても、下敷きにならないような場所で寝ています。また着替えをすぐ近くに置いて寝るようにもしていますね。地震は突然起きるので、役場から配布された非常持ち出し袋など、地震に備えた準備を普段からするよう心掛けています。



相原 鈴子さん (三好上)

子どものころに、東南海地震などのような大きな地震を体験しました。そのときには大きな被害がなかったためか、今もそれほど心配はしていませんが、新聞などの記事は見るようにしています。また飲み水を用意しておくとは必要かなと思えますね。



滝川 喜代一さん (三好下)

テレビのニュースや新聞の記事などで、地震に関する情報をよく目にしています。いつ大地震が起きるのかわからないので実感はありませんが、非常食については3日分ぐらいは用意しています。また子どもが幼稚園に通うようになるので、少し心配ですね。



羽田 静江さん (三好丘桜)

次回 5月1日号のテーマは「新学期を迎えて」

広報情報課が皆さんのところへ突撃インタビューに伺いますので、ご協力ください。また郵便や電子メールによる「声」もお待ちしております。(4月9日(金)締め切り)

みよしの文芸

俳句

野々山 重夫
空だけはきれいだつたよ風日和
太田 芙美子
晩鐘の韻ゆつたりと日脚伸ぶ
山田 年子
寒卵とろりとまろし粥の膳
酒井 登
菜園の為すこと多し日脚伸ぶ

短歌

異相 清鐘
犬飼うて癒されいるや長病の友さ
さやかな幸といいつつ
大島 岡子
枯葦に陽の深ふかと射し込む五
羽の小鴨は首を揃えて
大田 春子
故郷恋し舞鶴恋しじんじんと亡き
はらからへの思い出盡きず

狂俳

春分
極楽行きの法話聴く
林 美希
失敗話
原田 利秋
何時もお酒が絡んどの
シヨッピング
加藤 満春
特価に釣られ無駄を買う